経済誌「財界」 2011.2.8号に掲載されました。

二水会

撮影＝齊田 勤
photo by Saida Tsutomu

（東京・岩本町のセーフティーサービスシステム社の会議室にて） 写真中央の額の文字は会の初代代表世話人 宗 巌氏作。同社の「社是」で、二水会スタート時の趣意の精神を短く著した言葉。

前列左から、**小東正洋**（セーフティー・サービス・システム社長）、**松井家英**（三菱電機ビジネスシステム元役員）、**高見勇**（キーコーヒー元役員）、**土居征夫**（企業活力研究所理事長）、**佐藤進**（カイノス監査役）。後列左から、**伊藤正明**（関東電化工業元役員）、**立川隆司**（NTTファイナンス部長）、**三谷進**（ニホンハンダ開発本部長）、**山内進**（キーコーヒー監査役）

この会は都立戸山高校の仲間（昭和三十五年卒：宗、高見、土居、松井）が核となって発足させた勉強会である。

四十代後半に差しかかり、夫々の仕事に脂が乗って来た頃であった。宗 巌君（故人・後述）が趣意書をしたため、目ぼしい仲間のオフィスを訪れた。その趣旨に感じるところ在る面々が参加を約し、呼びかけの範囲も戸山高出身者に拘泥せず、切磋琢磨の意欲に燃えた有為の人士をさらに加え、平成二年三月十五名でスタートしたのだった。

当初参加のメンバーの所属分野は、官庁、銀行、損保、電機、食品、化学、建設、情報などで、携わる業務の範囲も、中央省庁の官僚、企業の経営企画、営業、経理、総務や、銀行エコノミストなど、多彩な顔触れになった。勉強会に、外から専門家や識者を招くことが無かったわけではないが、寧ろ中の人材が充分に才能豊かだったから、輪番で巡る毎回のテーマは都度、刺激的であり、相互の啓発に大いに資するものがあった。

初代の代表世話人、宗 巌君は建設資材を総合的に取扱うセーフティー・サービス・システム社のオーナー社長であったが、哀しいかな平成十五年六月、惜しくも肺癌に斃れた。恐怖と辛酸を舐めた満州引き上げ時の幼時体験を持つ彼は、些事に捉われぬ気持ちの大きな苦労人だった。早大在学時は雄弁会の幹事長職もこなし、都会育ちながら、農業に直接従事するなど、心身の修養にも努めたなかなかの人物であった。彼は、会社の会議室を会のために提供してくれた。場が確保されている安心感は、会の安定的継続に極めて大きな支えとなり、力となった。彼の亡き後、同社の社長を継いだ若手の小東正洋君も勉強会に加わった。引き続き、我々は会議室を使わせて貰う幸運を得ている。

発足後今日に至る二十年（今年は二十一年目に入る）の間に、メンバーは多少の代謝があった。が、意欲に富む新たな仲間も加わり、草創期以来の勉強熱心の風は今も続いている。

会の運営は、宗君没後の平成十五年から、高見君と不肖松井が代表世話人を、佐藤君が幹事を務め、運営に当っている。年十二カ月の内、九月だけは発足当初から休会月とした。が、残る十一カ月は、必ず月一で勉強会を開く。この内、八月の一泊二日の夏合宿は、メンバーの誰もが楽しみに待つ一大イベントである。第一日目は朝から皆でゴルフに興じ、夕刻には宿舎に移動、その晩は大懇親宴会で盛り上がる。翌二日目は、転じて真面目な勉強会をみっちり遣る。参考文献を予め読み込んだ上で一堂に会し、意見交換を行うのだ。現役を引いた者の比率が増えたため、近時はもっぱら読書に題材を得る事が多くなったが、例を二、三挙げるなら、李登輝の『「武士道」解題』や、司馬遼太郎の『日本人を考える』を題材にしたり、野村克也の著作を材料に「在るべきリーダー像」を論じたり、「健康」をテーマに、安保 徹氏の免疫学の労作に接し、相互の知見を高めた。

この二十年、我々は年十一回の例会開催の決まりを一度も休会にする事なく続けて来た。この事を密かに誇りつつ、今後も愚直にこのペースを守り、相互の啓発にさらに努めようと思っている。

（松井記）